

2016 熊本地震被災地の障害者を救おう！

熊本地震大阪障害者支援ニュース vol.3

2016年5月18日(水) 2016 熊本地震大阪障害者緊急対策連絡会本部 (TEL06-6697-9005)

JDFの設置した日本障害フォーラム(JDF)熊本支援センターの要請に応え、JDFでも、現地支援派遣が徐々に進み始めています。熊本支援センターから『つながろう仲間たちと ささえようみんなのチカラで～熊本支援センターニュース「火の国がんばり」』が配信されていますので、ご紹介します。

JDF 熊本支援センター始動・・・障害ある人のもとへ支援の手を！！

「熊本地震」の発生を受け、日本障害フォーラム(JDF)災害総合支援本部は、「JDF 熊本支援センター」を立ち上げ



ました。相次ぐ余震に、家に帰れない人も多
い中、障害のある人たちがどのような生活を送っているのか、その全体像はいまだ把握できていません。

JDF は東北の震災支援の経験も活かしながら、障害のある人たちが1日も早く元の生活に戻れるように支援していきたいと思
います。

当面の JDF の支援は以下の3点です。

多くの加盟団体から支援者の派遣を行っていただくようお願いいたします。

- ①障害者の被災状況やニーズ把握の調査
- ②障害者の救援、支援事業所の支援
- ③その他(連絡調整や事務作業等)

相談支援専門員協会との協力のもと手帳保持者の調査活動が本格化

被災地市町村から依頼を受けた、地元の相談支援事業所が、日本相談支援専門員協会(NSK)、熊本県相談支援事業連絡協議会、日本障害フォーラム(JDF)と協力・連携し、10日より障害者の自宅等を訪問する聞き取り調査を行っています。

JDF は、10日の週は熊本市南区に入り、調査の中では、「障害児を抱え車中泊をしていたが、疲れたので自宅に戻った」「自宅は全壊に近いが、福祉避難所が閉鎖されたので自宅に戻った」(片麻痺の方)「60歳代の精神障害の方と90歳くらいの両親が暮らしているが、息子が家に人を入れ

たがらないためにボラを頼めず、家の片づけができない」「50代車いすの方、弟と二人暮らし、物が倒れて大変な状況だが、避難所のトイレでは合わず、家で暮らしている。すごく不安を感じていて夜も車いすに座りながら過ごし、明るくなってから寝ることにしている」など、今回の震災の特徴である住まいの場の問題が大きく表れてきています。

16日からは益城町に入りました。

西原たんぽぽハウス支援状況

益城町同様、今回の地震で大きな被害を受けた西原村。震災直後には人口約7000人のうち、約5000人が避難することになりました。「避難生活を続けている方々に少しでも温かいものを・・・。」西原たんぽぽハウスのスタッフを中心に震災直後から1日3食、1回200～300食の炊



き出しが続けられ、それは避難されている方々の心を温め、笑顔を運んできました。この間、たくさんの方々に食材の提供や炊き出しの手伝いなどをご協力いただきましたが、避難所の再編により5月11日で終了となりました。

西原たんぽぽハウスの日中活動も5月9日より再開され、約3週間ぶりに再会するなかまの表情は安ど感が浮かんできました。しかし、なかまもスタッフも再建の目途はたっていません。自宅が倒壊の危険性があるため、部屋の片付けもできていない方がほとんどです。現在 JDF では、西原たんぽぽハウスの日中活動の支援として、1週間を通して2名のスタッフを派遣しています。震災前の状況にはまだ至っていませんが、なかまと一緒に作業を始めることにより、なかまが笑顔を取り戻し、スタッフが少しでも休息をとることができるようになると、次の一歩を踏み出すことができるのではないかと考えています。全国からの継続した活動支援をお願いします！



次に、独自に南阿蘇地域への支援に入られた、佛敎大学の後藤至功先生(大阪の学習会等でも講師をお願いした方です。)からのレポートをご紹介します。

南阿蘇支援からのレポート

南阿蘇村から移動しています。

南阿蘇村、雄大な山々、素晴らしい景色です。

地震が無ければ、もしかすると訪れることはなかったかもしれせん。

震災後、南阿蘇村に入りました。

南阿蘇村には 8 つの福祉事業所がありますが、阿蘇大橋や俵山トンネルの崩落により、生活導線が途切れてしまいました。

今回、私に課せられた役割は、福祉事業所を応援するために、「みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク」を立ち上げることでした。

本ボランティアネットワークはこれまで南阿蘇村で地域に根ざした実践を展開してこられた南阿蘇ケアサービスの熱意で生まれました。



要援護者の命とくらしを守るために、必死で頑張っておられる福祉事業所。そして彼らを応援しようと行動する支援団体、組

織、そして個人の皆さん。

行政も一体となって、今、まさに被災者の命とくらしを守るための実践が進められています。

いつもこうした実践に感動し、関わっていただく皆さんの思いと行動に心が揺り動かされます。

宝塚あいわ苑の皆さんとは、2 年間に亘り、福祉避難所のマニュアルを検討してきました。そのこともあって、今回、ボランティアのお声掛けをさせて頂いたら、快くボランティア派遣に応じて頂きました。今、特養)陽ノ丘荘にお入り下さっています。昨日、副施設長とお話をしていた時、いつも笑いが絶えず、関西の皆さんが施設に笑顔を運んでくれた、とお礼の言葉を頂きました。さすが関西！と自分ごとのように嬉しく、涙が出そうになる程有難いお言葉でした。

教え子が特別休暇を使って応援に来てくれました。私との入れ替わりで入ってもらいましたが、毎日あがってくる報告をみて、しっかりとコーディネートしてくれている彼の仕事

ぶりに確かな成長を感じました。卒業生と同じフィールドで仕事のできることに感謝です。

1日だけど、と関西からボランティアに来ていただいた方や、必要な情報が入るとメールに送ってくれる友人、事務局が大変だからと数少ないスタッフの中から人材を回していただいた熊本地震共同支援ネットワークの方々、そしてコーディネートに入って頂いている宝塚、淡路社協の方々、本当に感謝の限りです。

そして、今回、私が熊本に赴くことを温かく受け止めて頂き、私がしなければならない仕事のフォローをして下さっている職場の皆さんに改めて感謝です。

私は調子に乗ると傲慢な気持ちが表れてくるので、少し前までは、「正義のため、人命のために赴くのは当たり前」という感覚があったことは否めせん。

人が動く裏ではそれを支える人がいる。このことに気づくのに相当時間が掛かりましたが、今回、そのことが身に沁みました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

.....

熊本支援センターからの訴え

◎人員派遣を募集します！(特に西日本(愛知以西)の方)被災地の障害のある人たちのために一緒に活動していただけませんか？

●調査員 毎週 12 名 ●支援員 毎週 2 名 ●事務員 毎週 2 名

・日曜日 14 時に現地入りし、土曜日 12 時に出発となります。

・集合場所: 現地支援センター(熊本県身体障がい者福祉センター2階・第3会議室)

.....

引き続きご支援のご協力をお願いします！

こうした要請に応え、今後現地への派遣が要請されていくこととなりますが、大阪では、基本的にJDFの派遣要請に応え、その要綱にしたがった派遣を実施していくこととなります。ただ、現地の状況は、まだまだ余震等が継続しており、決して安定した状況ではない上に、かなり中長期的の支援が必要となると予想されます。

あわせて、長期化する避難生活で、現地の方々の不安や心痛は計り知れない状況となってきています。

現地のニーズに適切に応え、本当に必要な支援を行っていくことが大切な時期といえます。

大阪の連絡会では、5/21(土)に派遣所学習会の開催等、支援にあたっての事前の学なびを提供すると同時に、障連協ホームページに、特設の熊本支援の状況をアップするとともに、「支援の手引き」等の公表を行っています。

引き続きの支援をよろしくお願いします。